

2022 年の世界の生乳生産量を過去 20 年で最も低い 0.6%増と予測、乳製品 貿易量は 3.4%減に

FAO「食料アウトルック」2022 年 11 月号より

国連食糧農業機関 (FAO) は、世界の農産物需給などの概況を見通す「食料アウトルック (Food Outlook)」報告書を毎年 2 回公表している。11 月 11 日に公表された最新報告では、乳・乳製品の市場動向については、2022 年の世界の生乳生産量が、過去 20 年間で最も低い伸び率である 2021 年比 0.6%増の 9 億 3000 万トンとなると予測している。これは、生乳生産が、アジアを中心に増加する一方、欧州連合 (EU)、オセアニアで減少するためである。また世界の乳製品貿易量は、2022 年には 2021 年の高水準から 3.4%減少の約 8500 万トン (生乳換算) になり、約 20 年ぶりに減少すると予測している。これは 4 月から中国の輸入が 15%減少したことが主な要因であるが、加えて、今後、ニュージーランド、EU の輸出が急激に減少する可能性があるとしている。

なお、2022 年の世界の食料貿易の全体額は、食料価格の上昇と米ドルに対する通貨の下落を受けて増加のペースが鈍化するものの、2021 年の水準から 10%増加し、過去最高となると予測している。価格上昇が、輸入国の購買力、ひいては輸入食料の量を圧迫し、世界の市況は多少緩和されているものの不確実性は高まっていると指摘している。

以下では、報告書の中から、乳・乳製品の市場動向とニュースリリースの概要を紹介する。

【食料アウトルック】(*1)

乳・乳製品の市場動向

2022 年の世界の生乳生産量は、2021 年比 0.6%増の 9 億 3000 万トンと予測され、過去 20 年で最も低い成長となる (表 1)。この増加の多く

は、家畜の疾病の発生や異常気象により以前より成長率が低下しているにもかかわらず、乳牛頭数が増加しているインドとパキスタン、および大規模牧場経営によって維持されている中国が牽引している。しかし、紛争の影響を受けて

表 1. 世界の乳・乳製品市場の概観(*1)

世界総量	2020 年	2021 年 (推定)	2022 年 (予測)		増減(%): 2021 年/ 2020 年
			6 月	11 月	
総生乳生産量(百万 t)	912.6	924.8	937.3	929.9	0.6
総貿易量(生乳換算百万 t) ¹	86.6	88.1	87.8	85.1	-3.4
1 人当たり消費量					
世界(kg/年)	116.4	116.9	117.8	116.5	0.3
貿易のシェア(%)	9.5	9.5	9.4	9.2	-3.9
FAO 乳製品価格指数 (2014~2016 年=100)	2020 年	2021 年	2022 年 1~10 月		増減(%): 2022 年 1 ~10 月/ 2021 年 1 ~10 月
	102	119	143		22.1

いるウクライナと、異常気象、労働力不足、農業コスト高により利益が圧迫されているブラジル、EU、トルコ、ニュージーランド、オーストラリアでは大幅な生産量の減少が予測され、インド、パキスタン、中国で予測される生乳生産量の増加はほぼ相殺されるであろう。

2022年の世界の乳製品貿易は、8500万トン(生乳換算)で、2021年から3.4%減少し、約20年ぶりの減少となると予測される。これは、高水

準の在庫、国内生乳生産量の増加、新型コロナ対策の制限措置に関連した外食産業需要の減少により、4月から中国の輸入(主にホエイパウダーと粉乳)が15%減少したと見られることが主因である。また、ベトナム、ロシア連邦、バンラデシュでは消費量の減少、スリランカでは外貨の制限から、輸入が大幅に減少すると予測される。一方、フィリピン、インドネシア、メキシコの輸入は大きく増加すると予測され、他の地域の

表2. 乳製品の国際価格およびFAO乳製品価格指数(*1)

期間	国際価格 (米ドル/t)				FAO乳製品価格指数 (2014~2016年=100)
	バター ¹	脱脂粉乳 ²	全粉乳 ³	チェダーチーズ ⁴	
年次(1~12月)					
2011年	5 023	3 408	3 962	4 380	130
2012年	3 740	3 063	3 336	3 877	112
2013年	4 784	4 148	4 730	4 563	141
2014年	4 278	3 606	3 854	4 542	130
2015年	3 306	2 089	2 537	3 076	87
2016年	3 473	1 986	2 481	2 807	83
2017年	5 641	2 011	3 163	3 664	108
2018年	5 587	1 834	3 060	3 736	107
2019年	4 443	2 440	3 186	3 435	103
2020年	3 844	2 606	3 041	3 506	102
2021年	4 995	3 181	3 855	3 816	119
月次					
2021年10月	5 222	3 314	3 887	3 854	121
2021年11月	5 769	3 524	4 067	3 869	126
2021年12月	6 072	3 681	4 169	3 892	129
2022年1月	6 326	3 859	4 243	3 976	133
2022年2月	6 634	4 097	4 604	4 246	142
2022年3月	6 923	4 370	4 869	4 249	146
2022年4月	7 223	4 482	4 725	4 251	147
2022年5月	7 008	4 228	4 388	4 370	144
2022年6月	7 133	4 261	4 532	4 659	150
2022年7月	6 793	3 974	4 326	4 687	146
2022年8月	6 610	3 702	4 011	4 756	143
2022年9月	6 530	3 661	3 982	4 753	143
2022年10月	6 320	3 515	3 908	4 726	140

¹バター:乳脂肪 82%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

²脱脂粉乳:乳脂肪 1.25%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

³全粉乳:乳脂肪 26%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

⁴チェダーチーズ、最大水分 39%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

注:FAO乳製品価格指数は、国際的に取引されているEUとオセアニアの代表的な乳製品の貿易加重平均から算出される。

減少を部分的に埋め合わせるものと予測される。輸出側では、ニュージーランド、EU、ベラルーシ、トルコの輸出が急減する可能性があるが、メキシコ、インド、アルゼンチン、米国の輸出増加で部分的に補われる可能性がある。

FAO 乳製品価格指数は、2020 年 5 月以降、2021 年 6 月から 9 月の 4 か月間を除いて上昇が続き、2022 年 6 月には 2013 年 12 月に記録した史上最高値をわずかに数パーセント下回る記録的な水準に達した(表 2)。これは、主に西ヨーロッパとオセアニアからの供給減少を背景とした世界市場の需給逼迫に起因するものであったが、6 月以降、一部の主要輸出国の供給不足が続いているにもかかわらず、世界の輸入需要の減少を反映し、国際乳製品価格は下落傾向にある。

【ニュースリリース】(*2)

世界の市況は多少緩和されているが不確実性は高まっていると指摘

今回の報告書によると、世界の食料輸入額はこれまでの予測を上回り 1 兆 9400 億米ドルの新記録を達成する見通しである。FAO は、「世界の食料価格の上昇と米ドルに対する通貨の下落を受けて増加のペースが鈍化すると予測されるものの、過去最高を記録し、2021 年の水準から 10%増加することになる。輸入国の購買力を圧迫し、ひいては輸入食料の量を圧迫すると予測されている」と述べている。

FAO は、世界の食料輸入額増加は、主に国際価格の上昇による高所得国の増加分が占めているが、数量も増加することが予測される。一方、経済的に脆弱な国では、価格上昇の影響をより強く受け、低所得国グループで、数量ベースでは 10%縮小すると予測されるにもかかわらず、食料輸入費用総額はほぼ横ばいになると

予測され、食料の入手が難しくなっていることを指摘している。

これらは食料安全保障の観点から憂慮すべき兆候であり、輸入者が国際的なコストの上昇を賄うことが困難になることを示し、価格上昇に対する対応が出来なくなる可能性があるとして、報告書は指摘している。

FAO の最新のこの報告では、高所得国があらゆる食料を輸入し続ける一方で、発展途上地域はますます主食に重点を置くようになっており、以前からの格差がより顕著になる可能性があるとして警告しており、国際通貨基金(IMF)がFAOの食料輸入融資制度の提案に基づき、新たに「食料ショック融資枠」を創設したことは、低所得国の食料輸入コスト高騰の負担を軽減する重要なステップであると歓迎している。

今回の報告書では、肥料を含む輸入農業資材に対する世界的な支出についても評価を行っており、世界の農業資材輸入金額は、2022 年には前年比 48%増の 4240 億米ドルに、2020 年から 112%も増加すると予測されている。予測されるこの増加の背景には、エネルギーと肥料の輸入コスト上昇があり、低所得国や低中所得国の経常収支にひずみを与えている。その結果、一部の国では農業資材の削減を余儀なくされ、必然的に農業生産性の低下と国内の食料供給量の減少を招く可能性がある。FAO によると、「世界の農業生産と食料安全保障に対する負の影響」は 2023 年まで続きそうだ。

重要ポイント

- 世界の小麦生産量は、カナダとロシア連邦の収穫の回復に後押しされ、2022/23 年に過去最高の 7 億 8400 万トンに達すると予測され、世界の小麦在庫は記録的な水準になるはずであるが、主に中国とロシア連邦における在庫の積み増しが見込まれ、その他の

地域では在庫水準が 8%減少すると予測されている。

- 粗粒穀物在庫は、予測される生産量減少に伴う主要国の在庫取り崩しにより、2013 年以來の低水準に落ち込むと予測される。2022 年の世界の粗粒穀物生産量は 2.8%減少し、1467 百万トンになると予測される。2022/23 年には減少する可能性が高いものの、世界の米生産量は、アジアでの作付けの回復とアフリカでの生産量の回復に支えられ、全体として平均的な水準を維持すると予測される。
- 世界の油糧種子生産は、大豆と菜種の生産量増加により、ひまわり種子の生産量減少を埋め合わせて回復し、2022/23 販売年度に過去最高を記録すると予測される。
- 世界の砂糖生産量も、ブラジルの生産量の大幅な回復と中国とタイの作付面積の拡大が見込まれ、増加すると予測されるが、消費量の増加は緩やかなペースにとどまると予測される。
- 2022 年の世界の食肉と牛乳乳製品の生産量は、ともに緩やかに増加すると予測される。漁業と水産養殖生産の総生産量は世界で 1.2%増加し、水産養殖の生産量は 2.6%の拡大で捕獲漁業の減少は埋め合わされると予測される。

FAO「食料アウトルック」とは

年に 2 回発行され、穀物、植物油、砂糖、肉、乳製品、魚など、世界の主要な食料品の市場需給の動向を FAO が検証している。また、食料品の先物市場や輸送コストの動向についても言及している。

参考資料:

(*1)<https://www.fao.org/3/cc2864en/cc2864en.pdf> Food Outlook. November 2022. Food

and Agriculture Organization of the United Nations.

(*2)<https://www.fao.org/newsroom/detail/FAO-Food-Outlook-highlights-rising-food-import-bills/en> Alarming signs as the global food import bill set to rise to nearly US\$2 trillion due to higher prices.

(資料閲覧:2022 年 11 月 11 日)

(Jミルク 国際グループ)